

「煙突と子ども（疑問を感じたら尋ねてみる・忠告には感謝）」

今日は、はじめにクイズを出します。

これは、何ですか？ 「煙突ですね。」

煙突の中を二人の子どもが降りてきました。一人はススで顔が真っ黒でしたが、もう一人の子どもの顔は汚れていませんでした。煙突から出てきた二人は、おたがいの顔を見ました。

さて、ここで問題です。すぐに顔を洗い出したのは顔が汚れている方の子どもでしょうか？ それとも、汚れていない方の子どもでしょうか？

答えは、顔が汚れていない方の子どもがすぐに顔を洗いに行きました。

さて、それは何故でしょう？

顔が汚れていない子どもは、もう一人の真っ黒になった顔を見て、一緒に降りてきたのだから、

当然自分も汚れていると考え、顔を洗いに行ったのです。一方、顔が汚れている子どもが洗わなかったのは、その子が見た相手の顔が汚れていなかったため、自分もそうだと思ったからです。



では、このクイズについて、校長先生と一緒に少し考えてみましょう。

どう考えても、顔の汚れている人の方が洗いに行かないで、きれいな人が洗いに行くというのは変ですね。

この時、二人に「キミたちの行動はおかしいよ」と教えてくれる人はいませんでした。それでも、二人はそれぞれ相手の行動を「おかしいな」とは思ったはずですね。

顔のきれいな子どもは、「あの子は、顔が汚れてるのに何で洗わないんだろう」と疑問に思ったはずですし、もう一人は、「あの子は顔がきれいなのに、何のために顔を洗ってるんだろう」と不思議に思ったことでしょう。この二人のおかしな行動は、お互いに相手の行動を疑問に感じながら、それについて何も聞かなかったところに、原因があったのではないかと校長先生は考えています。

こうしたことは、私たちの生活でもありますね。

相手のすることや言うことに「おかしいな」と思いながら、何も聞かずにいることはありませんか？こちらがおかしいと思っても、相手はそのおかしさに気づかないことはけっこうあるものです。相手の言っていることや行動していること、考え方などで、おかしいと思ったことや疑問に感じたことがあれば、すぐに相手にそれを伝えてみるのが大切です。

また、自分の欠点は、自分ではなかなか気がつかないものです。しかも誰もその欠点を指摘してくれなければ、汚れた顔のままの子どもではありませんが、欠点を直さないまま生活し続けることになる場合もあります。欠点を指摘してくれる人がいたら、その人に感謝しましょう。

勉強でも生活でも友達関係でも、自分を高める上でとても大切なことです。

